

予算を減額 災害復旧に

平成30年は災害の多い年です。当地区でも7月の大雨では、市道の一部が冠水し「あわや」と緊張したことがありました。若干の影響はありましたが、

大事には至りませんでした。しかし、県内の東部や広島、岡山、また九州各地では、人的被害も含めて未曾有の大災害となつてしまいました。

現在も各地で復興を目指して、たくさんの人々が奮闘しておられます。国や県をはじめとする自治体も、緊急の予算を編成し、懸命の作業を続けています。

この度山口市の担当課から、災害復旧事業予算確保のために、農業の多面的機能発揮の交付金について削減されることが知らされました。

農地維持や共同活動の交付金については従前のままですが、施設の長寿命化事業については10%の減額となることとなりました。国の決定には従うしかありませんが、我々の活動計画に影響が出ることは否めません。

家族を失い、家を失い、農地も荒れ果てたという各地の状況を考えて、例年通りの作業が続けられる私たちが、これ以上望むことはできないと思います。

大きな被害にあわれた各地の、一日も早い復興を祈りましょう。



今年の稲刈りは9月の終わりから10月の半ばまで3回に分けて作業

計画図面と現況の確認作業を開始

平成19年から始まった農地保全の事業も、今年度で大きな区切りを迎えます。そこで改めて農地や畑などの地番と現況の確認作業をすることとなりました。

当地区では農事組合法人八方原が中心となり、全面的な耕作が続いています。しかし、他地区では耕作放棄地の増加というところもあるようです。

良好な農環境は住民の生活にとっても快適であるはずというのがこの農地保全事業の狙いの一つです。

この黒いお米は

名田島地区は広大な農地が広がり、山口市の穀倉地帯と言えるでしょう。稲作も何種類もの生産をしておられます。家畜の



食べられるのでしょうか

餌となる飼料米をはじめ、稲穂の色が異なる「古代米」もあるようです。

子どもたちの笑顔が何より

八方原自治会には少しずつ新しい仲間が増えていきます。地元の方の縁続きの方もいますし、全く新しく来られて方もおられます。

運動会などで、活動しているうちに仲良くなれることもありますし、新しい計画が持ち上がることもあります。今回ご紹介するのは、そうした中から生まれた新しいお付き合い「ピザ窯」



青空がまぶしい。写真の中央に見えるのが「ピザ窯」

「ティー」です。

3班の班長さん林さんの自宅では、自家製の「ピザ窯」ができました。その窯開きかねての、小さいお子様つながらグループが集まりました。

折から汗ばむような陽気、カリッと焼け上がったピザ、炭火で焼いたお肉のどを潤す飲み物。素敵なパーティーになりまして。でも一番の「おごちそう」は、走り回る子どもたちの、元気な姿と声でした。

市道の除草清掃 共同作業で瞬く間



何台もの刈り払い機で、一気に作業は進む



屋外 BBQ では女性や子どもたちはお客様待遇

10月21日、市道の除草清掃作業が行われました。これは市から受託している契約作業です。年に2回所定の路線と場所の管理を委託されているのです。人の参加で30分ほどで作業は終わりました。

自治会では参加者を募り、参加人数と仕事量を塩梅しながら、班ごとの持ち場を調整しています。

八方原森下線は、以前は林道でした。そのためこの作業はまさに「道普請」でした。町時代に舗装をして町の管理にしてくれましたが、作業は地元委託されているのです。

田んぼの恵み 農家のプレゼントではないけど

カメラに気が付いて一斉に飛び立つ鳩の群れ



夏の終わり、稲穂が実り、穂先が首をもたげるようになると雀が大群でやってきてその実をついばみます。稲刈りが終わると少し大きな鳥たちの餌場です。

鳩は数十羽で田んぼに降りて、落穂などを探しています。警戒心の強い彼

らは、人が近づくと空に舞い上がりまです。そしてまた別の場所で食事開始。いよいよ冬に向かって田んぼが掘り返されると、今度はサギなどが地中から出てくる虫たちをめぐがけてやってきます。農地の恵みに多くの生き物が生かされます。